「学校との関わり方」2次調査のお願い

1次調査にご協力いただき誠にありがとうございました。459名（重複回答を除いて）の方から回答をいただくことができました。

〇「2次調査の目的」：会員の先生方の参考となるような、学校との関わり方の活動の実際を集めることです。（それなら「回答しない」も、もちろん構いません）

〇回答の仕方：A4　1枚に学校との関わり方の活動の実際をまとめて以下の担当者までメールでお送りください。（詳細は下に示します）

〇回答の中から学校保健委員会で検討して、先進事例について

　１）2022年9月25日（日）第40回日本小児心身医学会学校委員会ミニシンポジウムで発表をお願いする予定です。（6人ほど）

　２）先進事例を集めて、事例集を学会員に提示したいと考えています。

＜具体的な回答の仕方＞（参考事例を添付します）

①「所属」、「お名前」、「タイトル」を必ずA4　1枚の中にご記入お願いします。

②記入ソフトはWORD,EXCEL、パワーポイントで作成してください。（それ以外をご希望の方は下記担当者にご連絡ください。）

③色は白黒です。

④回答期限は2022年4月末までに下記担当者までメール添付してお送りください。

＜提出にあたってのチェック項目＞（当てはまるものに〇をつけてください）

①所属、お名前、タイトルは記載されていますか？（はい、いいえ）

②第40回の学会でミニシンポジウム（状況によって座談会になるかもしれません）で発表していただいて構いませんか？（選ばれたら発表する、発表はしたくない）

③事例集で出す場合に（そのまま掲載可、修正して掲載可、掲載は不可）

　事例集で出す場合に（倫理的に問題はない、問題がある、わからない）

＜担当者＞

学校保健委員：井口敏之（星ヶ丘マタニティ病院小児科）

E-mail:syonika@toukeikai.comまたはtiguchi@ac.cyberhome.ne.jp（どちらでもかまいません）

TEL:052-782-6211(病院：郵便番号464-0026名古屋市千種区井上町27)

**参考事例**

「子どもも教師も楽しく通える学校になるように」

星ヶ丘マタニティ病院小児科　井口敏之

Ⅰ，小学校の学校医として1）

１，子どもたちに対して

１）6年生に心理教育の授業：マインドフルネス、アサーションなどロールプレイや気付きを大切にして

２，教師に対して

　１）クラス開きの前に現職教育：発達障害等の子どもたちとどう関わるかなど

　２）教師の個別相談：夏休みや冬休みに希望者に

３，気になるケースへの対応

　１）健診などで学校を訪問した際に、気になるケースの話を聞き、

　　①授業の様子観察とその後の担任等へのフィードバック

　　②教頭と一緒に本人や家族面談

　　③養護教諭の話を聞いてサポート・スーパーバイズ

　２）自院での早期の対応

　　①自院を早めに受診してもらい、見立て（心理検査等も）や治療（箱庭療法・薬物療法・環境調整など）

　３）教頭と相談し、クラスや担任配置について助言

Ⅱ，学校医以外で

１，かかりつけのケースについて

　１）手紙や電話、親を通してのコミュニケーションでうまくいかない場合に学校訪問・授業見学、校長・教頭・担任・支援員など学校スタッフと懇談して調整

　２）次年度の担任やクラスメートの配置等のお願いを学校にするように話す

２，依頼のあった学校で現職教育（授業見学・ケース検討も含む）

３，子どもの心研究会：クローズドな教師たちとの勉強会・ケース相談（学期に1回）

４，適応指導教室のスーパーバイズ・症例検討（月1回程度）

文献

1）井口敏之：学校医として子どもの心の専門医は何ができるのか。子どもの心とからだ2022，30(4)：541-545